19　次にあげる文章を読んで後の問いに答えよ。設問の都合上、返り点・送り仮名を省略した箇所がある。　　　　　　　　　　　　　　　　　　〈大阪大〉二〇二三年度出題

　昔　二 長　者一、左　右　之　人　レ 二 　一、皆　二 恭　一。長　者　 時、左　右　之　人　レ ＊　。二 一　愚　人一、不レ レ レ 、而　 、「　　レ 、　諸　人　　。⑴レ 時、我　 　一」。レ 　長　者　　レ 時、　愚　人 　レ 　二 長　一、レ 　レ 。長　者　二 愚　一 、  
「⑵汝　　　二 唇 一」。愚　人　　「　長　　唾 レ 　レ 、諸　人　　得二 　一、⑶我　雖　欲　踏、常　不　及。  
レ 、唾　レ レ 、レ 　　、⑷レ 二 　一」。

レ 。時　 レ 、　レ レ 、 ＊得二 苦　  
一。 レ 、⑸ 二 　一レ レ 。　　　　　（『百喩経』による）

＊踏却―脚で踏みつけて除く。地面に落ちた唾を掃除することをいう。

＊得苦悩―悩ましい結果を招く。

問１　傍線部⑴「欲唾時、我当先踏」を現代語訳せよ。「唾」の主語を明示すること。

問２　傍線部⑵「汝何以踏我唇歯」を現代語訳せよ。

問３　傍線部⑶「我雖欲踏、常不及」を、すべて平仮名を用いて書き下し文に改めよ。現代仮名遣いでもよい。

問４　傍線部⑷「望得汝意」とあるが、愚人はどのようなことを望んだのか、わかりやすく説明せよ。

◎問５　傍線部⑸「当知時与非時」とはどのようなことをいうのか、わかりやすく説明せよ。

※〔改題〕問いの表記を一部改めている。

【解答と採点基準】

問１　Ａ長者さまが唾を吐こうとするとき、Ｂ私が（長者さまが唾を吐くより）先に踏まなければならない。

Ａ＝５〔主語を補えていなければ減点３。「長者さま」は「身分の高い方」や「富豪さま」でも可。〕

Ｂ＝５〔「長者さまが唾を吐くより」はなくても可。「踏まなければならない」は「踏むしかない」などと訳しても可。〕

問２　ＡおまえはＢどうして私の唇や歯を踏みつけたのか。

Ａ＝２

Ｂ＝８〔「何以」を原因・理由を問う疑問詞として訳せていなければ不可。「踏みつけた」は「踏んだ」などでも可。〕

問３　ＡわれふまんとほすＢといども、Ｃつねにおよばず。

Ａ＝４〔「未然形＋んとほつす」と書き下していなければ不可。「ほっす」と現代仮名遣いでも可。〕

Ｂ＝３〔「と」がなければ不可。「いえども」と現代仮名遣いでも可。〕

Ｃ＝３〔「つねには」と書き下しているものは不可。〕

問４　Ａ長者の唾を誰よりも早く踏んで掃除することで、Ｂ長者から気に入られること。

Ａ＝５〔「誰よりも早く」という要素がなければ減点２。〕

Ｂ＝５〔「長者から気に入られる」は「長者の心をつかむ」「長者の好感を得る」などでも可。〕

問５　Ａ何事かを行うにあたって、なすべき時を見誤れば悩ましい結果を招くことになる。Ｂだから物事を行うには、その時機を適切に見極めなければならないということ。

Ａ＝５〔「なすべき時を見誤れば」は「まだ機が熟していなければ」などでも可。〕

Ｂ＝５〔「その時機を適切に見極めなければならない」は「実行にふさわしいタイミングを見定める必要がある」などでも可。〕

【書き下し文】

　り、ののをんとし、をくす。長者する、左右の人をてみてく。有り、踏むを得るにばず、ひてく、「しにに唾すれば、ち人踏みて却く。唾せんと欲する時、にに踏むべし。」にいて長者に唾せんと欲する時、の愚人ちをげて長者を踏み、をりをる。長者愚人にりて曰く、「を以てかがを踏む。」と。愚人へて曰く「若し長者の唾をでて地につれば、諸人に踏みて却くるを得、問３我踏まんと欲すとも、に及ばず。を以て、唾口を出でんと欲すれば、脚を挙げて先に踏み、汝の意をるをむ。」と。

　そは時をむ。時だるに及ばざるに、ひてをさんと欲すれば、つてを得。是を以て、当に時と時にざるとをるべし。

【現代語訳】

　昔長者がいて、（その）側近の者たちは彼に気に入られようと考え、誰もが慎み敬うことの限りを尽くした。長者が唾を吐くときには、側近の者たちは脚で（それを）踏み（地面に落ちた唾を）掃除した。一人の愚か者がいて、（ほかの者に先を越されて）踏んで掃除することができなかったため、考えて言うことには、「（長者さまが）すでに地面に唾を吐いた後では、ほかの者が（自分に先んじて）踏んで掃除してしまう。（だから長者さまが）問１唾を吐こうとするとき、私が（長者さまが唾を吐くより）先に踏まなければならない」と。こうして長者がまさに唾を吐こうとするとき、この愚か者はすぐさま脚をあげて長者（の口元）を踏みつけ、（長者の）唇を傷つけ歯を折ってしまった。長者が愚か者に話して言うことには、「問２おまえはどうして私の唇や歯を踏みつけたのか」と。（すると）愚か者が答えて言うことには「もし長者さまの唾が口を離れて地面に落ちてしまえば、ほかの者が先に踏んで掃除してしまい、私が踏んで掃除しようとしても、いつも間に合わないのです。このように思いますので、（長者さまの）口から唾が出ようとすると、その前に足をあげて踏みつけ、あなたさまに気に入られようとしたのです」と。

　そもそも物事は（それをなすべき）時機（を見極めること）が求められる。（なすべき）時機がまだやってきていないのに、無理矢理それを実行しようとすると、かえって悩ましい結果を招く。このことから、機が熟しているかいないかを見極めなければならない。